



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	留学生センター紀要の定期刊行に向けて
Author(s)	長谷川, 淳; Hasegawa, Jun
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 2
Issue Date	1998-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45557
Type	other
File Information	BISC002_001.pdf



留学生センター紀要の定期刊行に向けて

留学生センター長

長谷川 淳

大学の全ての教官が学生の教育・指導と専門分野での研究とを車の両輪として積極的な活動を展開する責務があることは言うまでもない。留学生センターの教官も、留学生を対象とする日本語教育、日本文化教育、生活指導・カウンセリング、短期留学プログラムなどの教育・指導活動の積極的推進とともに、各人の専門とする分野で研究実績を上げてきている。

研究成果の主たる発表の舞台は、著書などの刊行物やそれぞれの専門分野での学会、国際会議およびそれらの刊行物などであろう。また、それぞれが所属する機関の紀要や研究報告集も重要な場であり、それと同時にその機関の研究アクティビティを世に問うという重要な役割をも担っている。留学生センターの諸先生の熱心な努力により、日頃の専門分野での研究成果を発表する舞台の一つとして留学生センター紀要が1997年10月に創刊されて以来、1年余が経過した。

留学生センター紀要を定着させるには、掲載論文が専門分野の研究者から高い評価を得ることのできる質に保ち続けることのもちろんのこと、刊行を定期的に行うこと、忌憚のない評価が得られるよう広く各方面に配布申し上げることが極めて重要である。掲載論文の質については、留学生センターの教官各自の自己研鑽の在りようにかかっている。常に一步前に行く発想での研究の推進と、時機を失せずに成果を世に問う姿勢が不可欠であろう。刊行の定期化と配布の在り方については、組織としてしっかりと対応したいと考えている。今回ここに第2号を発刊できることとなった。多くの論文を掲載できたが、忌憚のない評価を仰ぐことができればと願っている。また、これを機に、なお一層の自己研鑽を積み、第3号、第4号と、質の高い論文を内容とする紀要を発刊し続けていくことを肝に銘じている。